

令和元年度 第1回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和元年7月18日(木)午後3時から午後4時25分まで
会場	豊栄地区公民館 2階 大講堂
出席者	北区自治協議会委員 25名(欠席5名) 教育委員:田中教育委員、渡邊教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、 学校人事課総括管理主事、学校支援課課長補佐、 豊栄地区公民館長、豊栄図書館長、 北区教育支援センター所長他4名 北区役所:副区長、地域総務課課長補佐 傍聴者:1名
議事	1 開会 2 教育委員挨拶(田中教育委員、渡邊教育委員) 3 意見交換 (1)令和元年度教育委員会の施策について(教育長)
本間久文 委員	4ページ ICT教育について、データを検索するのは非常に速いが、そこからまとめたり重要な事項を収集したりすることは非常に劣っている。何が重要か分からない。頭の1ページだけ見て、それで結論を出している学生が多い。どうやって情報をまとめていくか。 今までパソコンでやっていたものをタブレットでということを使いやすい面もあるかと思うが、タブレットは学校にどれくらい入れるのか。児童何人あたりに1台とか。
学校支援課 長補佐	検索だけでなく、まとめ方、抽出の仕方、必要な情報の選択が重要ということ は大切なご指摘であると思います。ICT 機器はあくまでツール、道具でありますので、それをうまく使いこなすだけでなく、思考力、判断力が伴う必要があります。機器の活用の仕方、検索の仕方だけではなくて、併せて考え方、必要な情報を選び出す能力などを学校教育の中で取り上げていく必要を感じております。 タブレット端末の数は、学校によって違いますが、現在各校13台から16台です。各クラスで活用するために一人1台ずつあるのが理想ですが、今後パソコンの入れ替え等のタイミングで、タブレット端末に切り替えていくのかどうか含めて検討していきたいと思います。
本間久文 委員	入れ替えは何年後くらいに考えているのか。
司会	担当課の学務課に確認のうえ、後ほど回答させていただきます。
藤沢委員	2ページ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置数と効果についてお聞きしたい。あと、12ページ 時間外電話対応の状況はどうか。
学校支援課 長補佐	スクールソーシャルワーカーは今年度1名増加になり4名になりました。学校からの要請に応じて対応するスタイルで、要望があればその学校に行き対応してい

ます。スクールカウンセラーは全部の学校に配置しています。効果は、ソーシャルワーカーについては、学校や行政機関では解決できない問題、福祉も関係する問題もあるので、そういった関係機関につなぐ役割をしたり、あるいは、第三者として、学校職員や教育委員会の指導主事等が、なかなか聞き取ることができない内容も、気を許して、聞き取ることができるという事から、なかなか学校では知りえない情報を得て、必要に応じて関係機関につなぐことができます。スクールカウンセラーについても、学校の先生や親には言えないんだけど、カウンセラーにであれば言えるという子どもたちもたくさんいますので、そういった子どもたちのつらい気持ちを受け止めたり心を和らげたりということで効果があると思います。

電話対応は、6月から全面実施しています。5月の自治協議会でも説明させていただきました。今のところ学校の方に、こういう状況であるという点については調査を行っておりません。ちょっと困っている状況については、朝の欠席連絡がもう少し早くからできるといいんだけどという声を2校から聞いております。それ以外は特に困っているという状況は耳に入って来ておりません。だんだん、電話は鳴るんだけど鳴る回数が減ってきた、気にならなくなってきたという声は耳にしています。

藤沢委員 電話対応については安心感ということもあるかと思いますが、しっかりと周知していただければと思います。

佐久間委員 4ページのICT教育に関して意見ですが、機器が導入されて、子どもたちもタブレットの方が楽しいでしょうし、思考力判断力も培うということでありがたいとは思いますが、半面、ただでさえSNSのいじめ、ネット依存の問題が増えている中で、小学生でもスマホを持っていたりする中で、さらに子どもたちのスマホ所有率が上がり、ラインによるいじめなどが増えるのではないかと懸念される。親としては心配。そのあたりの教育も併せて行っていただきたい。

学校支援課長補佐 とても大切なお意見をいただいたと思っています。機器の使い方、学習の仕方だけでなく、併せて、学年に応じた情報モラルについて繰り返し指導していく必要を感じております。授業の面だけではなくて、生徒指導の面も含めて指導が必要だと改めて感じました。

赤間委員 先生が忙しい忙しいというがなぜそんなに忙しいのか。主任がいて教頭先生、校長先生、教育の専門家だが、なぜそんなに先生は忙しいのか。給食費の集金が忙しいのかと思ったら会計もいる、30人の子どもが担任と1日一言も話さないで帰る子どももいるのではないかと感じる。まず30人の子どもと「おはようございます」だけでなく、学校に来る途中で何があったとか夕べ何を見たとかどうだった、そういう話を先生とする、これが教育の基本だと考えている。教育委員会へ出す資料作りが大変なのではないか。校長、教頭、教務主任がいて、教育委員会に何の資料を出すのか、なんのための教育委員会か。

学校人事課 貴重なご意見だと思っています。先生方、何に忙しいか、子どもたちのためにたくさん時間を使っています。また、教育委員会提出資料が多く忙しいのではないかとのご指摘については、教育委員会内に、多忙化解消のワーキングチーム

を立ち上げ、教育委員会の、今学校現場に課していることについて削減し、会議を開いて検討しています。12、13ページに、教育委員会が今取り組んでいる、学校現場が取り組んでいる多忙化解消について記載されていますし、以前リーフレットでお渡しした中にも取り組みを説明しています。この働き方改革多忙化解消は何のためにやるか、もちろん先生たちが元気になって子どもたちと接すると、そのためのものであります。今後、地域の皆様からも応援いただきながら働き方改革多忙化解消、そして先生たちが元気になって子どもたちにしっかりと向き合える環境を作っていきたいと考えております。

神田委員 電話対応について 先生方がいない時に子どもたちだけでグラウンドで遊んだりしているが、けがをしたりなど緊急の時はどのような連絡体制をとっているのか。

学校支援課長補佐 子どもたちに緊急の事案があったときは、警察署や救急の方から私ども教育委員会の方に情報が入るようになっております。必要に応じて私どもの方から該当する学校や関係する所にすぐに連絡するようにしております。

神田委員 子どもだけでいて、警察に連絡できる体制はどうなっているのか。学校に連絡取れない場合はどうすればいいのか。どういう指導をしているのか。

学校支援課長補佐 子どもたちが、子どもたちだけでいて何か怖い目にあったりしたときにどうするかということでしょうか。ケースによっても違うと思いますが、各学校では、近くにいる大人にすぐに連絡をする、助けを求めるといった指導を行っておりますし、何か怖い目にあいそうになったらすぐにその場を離れるという指導を行っているところであります。

議事 (2)保護者・地域・学校の連携について

阿部委員 (梅津委員の代理) パートナーシップ事業について、1つは、それぞれ学校の独自性を大事にしていますが、特に中学校において学校間格差が気になります。校長はじめ職員やコーディネーターへの働きかけをどのように行っているのか、新潟版コミュニティスクールに向かってどのようにしていくのか。

2つ目は、保護者と連携について。ほとんど共働きで、学習参観に来て学級懇談会には残らない、事情はあると思いますが、PTA活動や家庭教育を大事にしない傾向があります。パートナーシップ事業は何のためにあるのか、その成果は何か、保護者の皆さんにもっと理解してもらおう方策はあるのか、ただ学校に任せるのか教えてください。人が大いにかかわることで子どもたちの将来が変わってくると思います。

地域教育推進課長 貴重なご意見ありがとうございました。持ち帰らせていただく面もあるかと思いますが、現在分かっていること、お話できることとお話させていただきます。学校の独自性はいいが学校の格差があるのではないかというご意見について、まず、私たちは、ベースとなる部分については市全体として統一した取り組みをお願いしています。ただ、すべてを統一していただきたいと思います。それは、各学校は、それぞれの地域に根差した教育活動をしているからです。例えば農村部の小規模校、中核地の学校、あるいは独自の文化、祭りなど様々な実態があり

ます。それをすべて統一してということを目指すのは難しい。逆に、地域の特徴をしっかりと把握をし、地域の皆さんの声を聴きながらパートナーシップ事業を進めてくださいということを学校にお願いしています。とはいっても、それぞれの成果が分からなくてはいいいところを学ぶこともできません。そこで年間3回の研修をしています。各学校の情報交換、新しく校長先生になられた先生には、地域と学校の連携・協働の大切さと生かし方を学んでいただくよう、そして校長先生が独自性を生かしていただくような形で研修を進めています。まだ十分とは言えないところがあるのかなというところでご意見を頂戴したと思いますが、また持ち帰らせていただいてさらなる工夫を進めていただきたいという風に思います。

2点目、保護者との連携はいかがですか、保護者の皆さんの協力はどうですかという事だと思っています。保護者の皆さんは、働きながら自分の子どもを育てていらっしゃる方もいます。地域の一員としては保護者の皆さんからも当然かかわっていただく必要があると私たちは思っています。地域の考え、その中の、保護者の考え、学校は、地域の皆さんに学校の取組を説明をする、同時に保護者の皆さんにも説明する。あるいは地域の皆さんにしていきたいことを話し合う、保護者の皆さんにしていきたいことを話し合う、こういうことがより一層必要なんではないかと考えています。地域と学校パートナーシップ事業が、活動を中心に進めていたところが、現状です。そこには、地域の思い、学校の思いを共有することを進めてきたのですが、より一層の情報共有や思いの伝えかたが必要だろうと思います。これを解決するのが、これから進めます、先ほど教育長が申しあげました、新潟市版のコミュニティスクールだというふうに考えています。この詳細はまだまだ制度設計中でございますけれども、地域の皆様や保護者の皆様、学校、それぞれの地域団体の皆様から入っていただきましてその立場に応じて様々な意見を出していただきながら学校が何を担うのか、地域の皆さんに何を願うのか、保護者の皆さんに何をさせていただいて何をするのかということをしつかりと時間をかけて話し合っていくことが新潟市版のコミュニティスクールだというふうに考えております。制度が整い次第また日を改めてご説明の機会があればというふうに考えているところです。

司会

梅津委員の方からはアンケートの際もご意見をいただいております。パートナーシップ事業が始まって10年、連携は進んでいますが更なる連携を目指して話し合いができたらいいいと思いますとご意見をいただいております。地域・学校と、一方保護者 PTA とのかかわりについて、1号委員の、地域を代表されている方の中で、地域活動の中でそういった保護者 PTA のかかわりについて何かお考え等あれば見守り隊なども含めてお聞かせいただきたいと思います。

松田会長

少し話はずれるかもしれないが、パートナーシップ事業の成果が数値上は意外と高いとびっくりして見ていた。先日、私が住んでいる校区の光晴中学校の教育会議があった。3ヶ校から私ども地域、先生方、PTA も入って30人くらいの会議ですが、そこで話をさせてもらったのが、地域の方においでいただいてすごく助かっている話の中で、私が発言させてもらったのが、私自身も何年か学校花壇づくり

に参加したんだけど、生徒も先生も何も自ら活動していない。何年やっても同じことの繰り返し。形だけ地域の力を借りてというのが中身を見るとまさに私たちが動かなければ生徒も先生も動かない、そのような活動はいかがなものかという話をしました。つまり花壇づくりなんて単純な作業なので毎年それをやっている以上は前日ある時間をつかって花壇づくりの手順を確認して役割分担をして先生も確かめられたうえで当日そこに来るとということが最低限、やることを頭に入れてやらせるようなそういった仕掛けをしないと、相も変わらずただただ地域の人に来てくれてよかったということではだめだと。私は最近やる気がなくなって参加していません。そういう話をしたわけです。ですから、今一つ例をあげたんだけど、こういうことが学習の場でも地域の人に参加するときに、先生が丸投げで、一つ今回は1時間やはりそれは先生の役割、講師の役割、生徒も、前日からしっかり確認しあってやるようなことにしないと効果は上がらないと思っている。

保護者の話ですが、朝、下校見守り活動をやるんですが、光晴中学校区のPTAの人たちは、1年に1回くらい朝でも帰りでも見守り活動に参加しましょうと呼びかけがあるから来てくれるんだけど、腹が立つのはほとんど何も、そこに立って見守りしない。スマホをただ見ている。そして時間をつぶしてさっさと帰る。私たちが子どもたちを渡らせたりしているがほとんど役にたたない。こういうことを一緒に参加した自治会長や委員から困るねと。親の意識を変えなければだめだ。

地域教育推進課長

今まさに会長がおっしゃっていたご指摘は感じていて今後の課題だと思っています。取り組みについて、活動させるだけでいいのか、先生方の取組、子どもたちの取組になっているのか、13年目に入って、活動中心、活動だけをすればよい、この活動は地域にお任せすればよいというように思いがちな活動が残っているのは事実です。これを私たちは拡大から持続へ、そして重点化を図ることで解決してくださいと先生方をお願いしています。本当にその活動は必要なのですか、これは子どもたち、先生方、地域の皆さん、保護者の方にとって大事な取り組みか、もう一度確認をしてほしいということです。ある学校の校長先生が、私たちの学校では、長い間やってきた活動があるけど本当に必要なかというご意見を地域の方からいただいたのもう1回見直しました、あえてやるのをやめることにしましたという校長先生がいらっしゃいました。日々進化をしつつ、大切なものを残していくという風に思っております。これっていいんかねという疑問をまた学校と地域のみなさんとのやり取りの中で、やっぱり必要だから続けましょう、あるいはこれはいったん卒業しましょうというように話し合いを進めることが大事だと思います。

2つ目の、保護者の見守り活動への参加について、地域の皆さんの声が現在保護者の方に届いていない場合がある例なのかなと思います。最終的に大切なのは子どもたちの安心安全であり子どもたちの健やかな成長だと思っています。そういう点では地域の皆様も保護者の皆様も先生方も目指すところは同じですので、しっかりと語り合う時間をとっていただき、その中で何ができるのか、何ができないのか、だれが担うのかというところを明確にしていかなければならないと私たちは思っております。しっかりと話し合い思いを伝え合う、これから先の新潟市のコミュ

ニティスクールを進めていく中での大切なテーマであり、そういう話題が皆さんにとって自分ごととしてとらえていただくように私たちとしては準備をしなければいけないなと思っております。

司会

地域の負担が大きくなっている、保護者の姿が少し見えづらくなっているんじゃないかというようなご意見をいただいております。同様の意見を佐久間委員からもいただいております。

佐久間委員

中学校で PTA 会長をしている立場であり胸が痛い。PTA の中でも子どもたちに興味関心があり積極的に参加してくれる保護者は本当に少ない。小学校はまだしも中学校は参観日すら来ない。2~3人しかいない。懇談会もいつも同じメンバー。PTA 活動について、いろいろな苦言を発する人に限って会議には出てこない。親の質、家庭教育力の向上が一番大事なんじゃないかと思う。学校、教育委員会がいろいろとやっても結局一番大事な家庭を見る保護者が無関心だったりとか、子どもたちの心の成長にはつながっていかないと、保護者ががんばらないと。PTA でも、いかに興味を持ってもらうか、一生懸命考えてやっているけれど、学校と保護者の会を企画しても本当に集まらない。いつもの懇談会メンバー。ここであきらめたら始まらないので、協力してくれる積極的な保護者に声をかけながらやっていくしかないのかなと。パートナーシップ事業に関して思うことは、地域と学校と保護者というんですけど、地域と学校は割と連携しているが、そこに保護者は入っていないし、入っていけない感じの、PTA としては学校に対する高い壁があるってうか、PTA に対して遠慮がちな先生がいたり、保護者が非協力的だったり、保護者の意識を変えていけるような働きかけを PTA としてもやらなければいけないと思いますし、保護者であり地域の一人なので地域としてもやらなければならないし、教育委員会としてもやってもらえたら少しずつ変わっていくのかなという思いで日々います。

司会

支えあいのしくみづくり会議の菅原委員から、子どもだけでなく地域に住むシニア世代、世代間交流、縦割りでまちづくりを考えたらいいのではないかとのご意見もいただいております。

菅原委員

支えあいのしくみづくり会議に所属しているものですが、パートナーシップ事業について詳しく読ませていただいたのですが、南浜中学校区の認知症サポーター養成講座昨年参加しました。地域の方が一緒に子どもとかかわっているのはいい事業だなと思っておりまして、これがこのように他の中学校でもされている事業のひとつだったんだと今日初めて知ったんですが、また担当している地域の中でも濁川中学校も図書館を地域にも開放するということをしてしまっていて、地域に住む方たちが、今後高齢化社会ですとか介護予防ですとか役割ですとかやりがいというところで、地域の茶の間などもう新潟市内では広まっていますけれども学校との関わり若い世代との関わりはなかなかとれないのが支えあいのしくみづくり会議でも課題になるところなので、今後そのような教育関係のところ連携が出てくればいいなと思っております。

司会

今回いただきました課題をもとに、次回のミーティングにおいて現在の取組内

渡邊教育委員	<p>容、成果など情報共有したうえで改めて意見交換したいと思います。</p> <p>保護者の関わりが少なく姿が見えにくい。自分も決して積極的ではなかったが最低限のことはやっていたと思います。熱心に活動している人には頭が下がる。精一杯やってきたつもりだが状況は人それぞれで、母親に負担が多くそこに苦しみもある。お互いに意見が出しやすい工夫があると良いと思います。</p>
田中教育委員	<p>すべての子どもが毎日担任と話せることは大事。緊急時警察との連携が重要。保護者の意識をどう高めるか。平成29年度北区自治協議会福祉部会だよりを読んだが子どもを大事にし学校を支えようという気持ちが伝わってきました。</p>
議 事	<p>4 自治協議会会長挨拶</p> <p>5 閉会</p>